はじめに

「良い家は高い」。「お金を出せば良い家は出来る」。これは本当なのでしょうか？高ければ安心できるのでしょうか？安ければ危ないのでしょうか？

最近、家づくりに失敗する人が増えています。

「欠陥住宅をつかんでしまった」

「思い描いていた家と違うものができてしまった」

「余計なお金を何百万もかけてしまい返済できない」

と、このような話をよく耳にします。

あなたのご近所でも工事が中途半端な状態で止まってしまった。新築したばかりなのに何か月も住まわないうちに引っ越した。あるいは、ある日突然違う家族が住んでいた。といったことはありませんか。

業界にいるとわかるのですが、これらは欠陥住宅をつかんでしまった。または、返済ができずに競売にかかってしまったのです。

新居での楽しい生活が始まると思ったのに人生が台無しです。しかし、現実的にはこのような問題は後を絶ちません。なぜでしょうか？

これらの問題はユーザーに正しい情報がほとんど届いていないことが原因です。業者は必要のないこと、これを言うと自分に不利になることはユーザーには話しません。私もかつて、ハウスメーカーの営業マンのころはそうでした。

私達家づくりに携わる者が、また、現場の第一線で働いている人間が正しい情報を届けなければ、家づくりで後悔する人は後を絶たないでしょう。

私は、最近まで、「欠陥住宅などそんなにあるもんじゃないよ」と高をくくっていました。ところが、身近で家づくりに失敗して、途方にくれている家族が現れてしまったのです。私も他人ごとのようには思えなくなりました。

私は、先代である父の突然の不幸により、いつもは、「にこにこ」している母が、残された数千万の借金を返済しなければならなくなり途方に暮れている姿をみて、家業を後継することに決断しました。「棟梁についてひたむきに大工の見習いをしたとき」「営業成績だけを求められ、棟数を取り続けた営業マン時代。そしてその事に疑問を持ったとき」「建築技術向上のため国家資格（一級建築士等）を習得しようと一生懸命

勉強し、国家免許を習得したとき」 私はこれらを経験して現在に至っております。

「良い家に住みたい」　という思いは万人の願いです。その願いをかなえるために、私はこのレポートを書きました

これからお話する内容は、営業のプロや建築士が口を閉ざし秘密にしていたことです。

この話を聞いた後、あなたは目からうろこが落ち、家づくりに対する不安が解消されることでしょう。